

研究機関名：旭川医科大学

承認番号	16200
課題名	道北地域におけるアンチバイオグラム作成
研究期間	2017年3月3日 ～ 2021年3月31日
研究の対象	2016年1月～2021年3月に当院の日常診療で薬剤感受性試験を実施した方
利用する試料・情報の種類	<input type="checkbox"/> 診療情報（詳細： ） <input type="checkbox"/> 手術、検査等で採取した組織（対象臓器等名： ） <input type="checkbox"/> 血液 <input checked="" type="checkbox"/> その他（ 菌株および薬剤感受性データ ）
外部への試料・情報提供	<input type="checkbox"/> 自施設のみで利用 <input checked="" type="checkbox"/> 多施設共同研究グループ内 提供先：当院感染制御部 提供方法：年1回、5月1日～5月末日の期間における対象菌種の薬剤感受性データを提供します。データは個人が特定できる情報を削除しており、外部からアクセスできないシステムに、専用コードを付して台帳管理しています。システムは関係者以外がアクセスすることはできません。試料（菌株）やデータは、当院臨床検査・輸血部内にて保管・管理しています。その後提供先より、集計、解析を実施し、抗菌薬に薬剤が効くか効かないかの割合を表示した表（アンチバイオグラム）が参加施設へ配布されます。 <input type="checkbox"/> その他（提供先： ）（提供方法： ）
研究組織	旭川医科大学病院：大崎 能伸 旭川医療センター：山崎 泰宏 旭川厚生病院：秋葉 裕二 旭川赤十字病院：堀田 裕 市立旭川病院：岡本 佳裕 遠軽厚生病院：原 理加 富良野病院：角谷不二雄 名寄市立総合病院：菅野 進一
研究の意義、目的	近年、抗生物質の不適切な使用を背景に、新たな薬剤耐性菌が増加しています。このため、2016年4月に「国際的に脅威となる感染症対策関係閣僚会議」にて「ARM対策アクションプラン」が決定されました。ART このアクションプランは成果目標が設けられ、各医療機関は、薬剤耐性菌の抑制・拡散防止に向けた対策の強化や抗微生物薬適正使用チーム（antimicrobial stewardship team：AST）設置などへの取り組みが検討されています。このような流れの中、地域における抗菌薬の感性率を把握しておくことは、ARMアクションプラン対策の取り組みの根拠となるばかりではなく、達成度の把握にも繋がる有用な情報と考えられます。地域の薬剤耐性動向を調査することは、感染対策、抗菌薬の適正使用の観点から重要な取り

	組みであります。
研究の方法	<p>毎年5月1日～5月末日の期間に参加施設は前年度の薬剤感受性データを病院システムから抽出し、旭川医科大学病院感染制御部に提出してもらいます。</p> <p>旭川医科大学病院感染制御部が中心となり、参加施設から提出されたデータの集計ならびに解析を担当致します。</p> <ul style="list-style-type: none"> i) 参加施設全体のアンチバイオグラム（細菌毎の薬剤感性率）を作成します。 ii) 各細菌に対する各薬剤の感性率の最低値、平均値、最高値を算出します。 iii) 参加施設全体のデータと参加各施設データとを比較します。 iv) 各細菌に対する各薬剤の感性率の経年変化を算出します。 <p>対象菌種は、検出頻度の多い細菌、各施設で検出頻度は低い臨床問題となる細菌を中心とします。</p>
その他	<p>この研究に費用は発生いたしません。また、企業との関わりもありません。しかし、今後は科学研究費や民間の助成金の申請を行い、外部資金の獲得を目指します。資金源・利益相反に関する状況が変化した場合は、速やかに旭川医科大学倫理委員会ならびに利益相反審査委員会に必要事項を申告し、その審査と承認を得ます。</p>
お問い合わせ先	<p>本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。</p> <p>照会先 住 所：旭川市緑が丘東2条1丁目1-1 旭川医科大学病院 感染制御部／臨床検査・輸血部 研究責任者：大崎能伸（0166-69-3211） 研究担当者：渡 智久（0166-69-3364）</p> <p>研究代表者： 旭川医科大学病院 感染制御部 部長 大崎能伸</p>